

おいしい秋 満喫！

第40回白石市農業祭

11月10日・11日の両日、ホワイトキューブで農業祭を開催しました。今年で40回目を迎えた農業祭には、農家の皆さんが丹精込めて育てた、彩り豊かな秋の実りがたくさん！ 開場前から大勢の人が詰め掛け、2日間で約30,900人が訪れました。

恒例の農産物コンテストには約300点が出品されたほか、人気の新米すくい取りや、認定農業者連絡協議会餅まきも行われ多くの人が参加していました。また、姉妹都市である北海道登別市と神奈川県海老名市や、みちのく真田ゆかりの地である蔵王町と秋田県由利本荘市の物産も大集合。本市と特産品相互取扱協定を結ぶ大阪府泉佐野市物産展や、白石和紙の原料になるトラフコウゾの株分けで交流が生まれた愛媛県鬼北町からはきじ鍋が振る舞われました。ほかにも楽しいステージイベントなどがあり会場は大いに賑わっていました。



1_おいしい秋がズラリと並んだ農産物コンテスト 2_柔らかい肌触りが女性に人気の泉州タオル 3_西日本豪雨災害の寄付へのお礼に振る舞われた鬼北町のきじ鍋 4_恒例の餅まきは毎年大盛況！

列藩同盟の内実が明らかに！

戊辰戦争の歴史シンポジウムを開催

11月11日、戊辰戦争から150年の節目を記念した歴史シンポジウム「戊辰戦争 奥羽の選択 それぞれの列藩同盟」をホワイトキューブで開催しました。

戊辰戦争の際、奥羽越列藩同盟に参加した仙台藩、米沢藩、秋田藩それぞれの視点から、研究者3人が講演とパネルディスカッションを行いました。講演では、各藩の歴史的背景と当時の情勢に基づく動向が紹介され、パネルディスカッションでお互いの関連性について議論を深めました。これまで、西南諸藩に比べ奥羽諸藩の研究はなかなか進展しなかったものの、このシンポジウムをとおして当時の詳しい政治過程が明らかになっていきました。

研究者らは「各藩の研究者が集まってディスカッションすることは珍しいので、とても貴重な機会でした」と今回のシンポジウムの意義を語りました。



1_会場には市内外から約390人が詰めかけました 2_仙台藩について講演した栗原伸一郎氏（東北大学大学院文学研究科学術研究員） 3_秋田藩について講演した天野真志氏（国立歴史民俗博物館特任准教授） 4_米沢藩について講演した友田昌宏氏（元東北大学東北アジア研究センター上廣歴史資料学研究所部門助教）

広げよう！ 健康とささえあいの輪

第10回健康福祉まつり

11月3日、「第10回白石市健康福祉まつり」をホワイトキューブで開催しました。このまつりは、障がいのあるなしに関わらず地域で暮らせる社会、心も体も健康であることの大切さに気づく社会づくりを目指して開催しているもの。会場には、各種健診や車いす・手話などの体験や、障害者支援施設によるダンスや太鼓の披露、福祉施設や特別支援学校の皆さんが一生懸命作った作品の展示など、多彩なコーナーが設けられ、約1,900人の来場者で賑わいました。



▲白杖を使い目隠しをして歩く体験をする参加者

白石の食べ物が大集合

白石フードフェスティバル

10月20日、白石の食が一堂に会した「白石フードフェスティバル」が中央公民館で開催されました。

このイベントは、白石の新たな地域ブランド「白石三白」の認証品を広く知ってもらおうと白石商工会議所が企画したもの。会場では新しい認証品のお披露目と試食が行われたほか、市内食品業者13社による試食・販売ブース、減塩乳和食の料理教室などがあり、来場者は館内を巡りながら白石の食を再発見していました。



▲減塩乳和食の料理教室では、牛乳を使った鍋料理に挑戦

往年の名車が白石城に集結！

ラ・フェスタ ミッレ・ミリア2018が白石市へ

10月20日、クラシックカーの公道ラリー「ラ・フェスタ ミッレ・ミリア」が開催され、白石城に約100台のクラシックカーが集結しました。このラリーは1997年から開催され、東日本大震災以降、関東甲信越方面にルートが変更。今年は約8年ぶりに東北ルートが復活し、チェックポイントとなった白石城では山田市長と甲冑武者たちが出迎え、往年の名車を一目見ようと集まった多くの観客と勝ちどきを上げ、ドライバーの安全と完走を願いました。



▲白石城では山田市長がクラシックカーを出迎えました